

Title	表紙・目次ほか
Author(s)	
Citation	史林 = THE SHIRIN or the JOURNAL OF HISTORY (1977), 60(4)
Issue Date	1977-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/238360
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



第60卷 第4号 史学・地理学・考古学

論 説

- ハンガリー蜂起とイギリス共産党……………富岡次郎 (1)
- 洛中の土地支配と地口銭……………馬田綾子 (34)
- 懲罰遠征隊 (1916-17年)……………青木芳夫 (81)
- メキシコ革命とアメリカ——

ノ ー ト

- 18～20世紀ウイグル族人口試論……………堀直 (111)

書 評

- 原随園著『ギリシア史研究余滴』……………新村祐一郎 (129)
- 水野恭一郎著『武家時代の政治と文化』……………今谷明 (136)
- 児玉識著『近世真宗の展開過程』……………山中寿夫 (144)
- 昌彼得, 王徳毅他編『宋人伝記資料索引』……………森田憲司 (150)
- A. Л. Каждан, *Социальный состав господствующего класса Византии XI-XII вв.*……………井上浩一 (157)

紹 介

- 吉田三右衛門編『銀札座覚書』(作道洋太郎)
- M. R. Morgan, *The Chronicle of Ernoul and the Continuations of William of Tyre* (八塚春児)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

と同人物らしく、恐らく一一八七年のエルサレム陥落前後の時期におけるイブラン家の行動を弁護するために年代記を書いたのであり、現在では失われてしまったその年代記は一一九七年までのものであったらしい。

Mas-Latrie 編の本はコルビー修道院の会計官 Bernard の編集したものであり、Enoul の原年代記はその一史料に過ぎない。

Enoul の原年代記は、冒頭く一一八五年の部分は Mas-Latrie 編に見られるような略本 *abregé* 系(但し手稿本 *Saint-Omer 722* が優先)、一一八五～一一九七年の部分は *Exults d* 本 (*iron* 本) の中にそれぞれ最も良く反映している。その場合、重要なのは目撃者の報告として信憑性の高い後者の部分である。この故に、本書では d 本の重要性が繰り返し強調されており、これが本書の眼目の一つであろうと思われる。但し、著者も指摘する如く、d 本は完全な形での公刊がまだなされておらず、その十分な活用のためには、新たな編集が望まれる所である。

最後の章では、史料として用いる場合の

従来の方法の批判とその修正が要約されており、各本はまとまったものとしてではなく、断片の集成として扱うべきであること、重視すべき本の変更、諸本の新しい命名法、諸本を扱う上での注意等、いずれも有用な指摘がなされている。

以上、ごく簡単に紹介したが、全般的な所感として、本書の中心主題の一つが Enoul の原年代記の再構成であるため、一一九七年以降の部分については、どうしても叙述が少し簡略になるように思われる。尤も、それは望蜀と言うべきかもしれない。手稿本も含めて諸本を渉猟した本書の実証的部分の当否については、固より紹介者の能く論評し得る所ではない。上述の如く、今まであまり研究がなされて来なかったこの問題について、著者の結論が定説となるには、更なる論争を経る必要があるかもしれない。しかし、少なくとも今後、エルサレム王国史、特に一一八五年以後のエルサレム王国史について研究する場合、本書を無視することはできないように思われる。

(一〇四頁 一九七三年 London, Oxford University Press)

(八塚春児 京都大学大学院生)

「史林」総目録の刊行について

別記会告でお知らせしますように、「史林」六〇巻を記念して、一卷から六〇巻までの総目録を刊行いたします。本会は、過去に二〇巻、四〇巻刊行の機会にそれぞれ総目録を編集し、会員の皆様にお届けしてまいりました。今回も、そのための特別委員会を置いて作業を進めております。

それにつき、これを「史林」特別号として年末にお手元に配布いたしますので、今年度会費以外に、実費程度の御負担をお願いしなければなりません。諸物価高騰の折柄、まことに心苦しく存じますが、現在の経済情勢から止むをえぬ事情を御諒察頂き、御協力のほどお願い申し上げます。

なお、定価は次号誌上でお知らせする予定であります。

会 告

去る五月一二日(木)、楽友会館において昭和五二年度春季定例理事会・評議員会が開催され、つぎの案件が、いづれも異議なく承認・可決されました。

一、「史林」編集報告

二、「史林」六〇巻記念事業として特別号(総目録)を刊行する件

三、昭和五一年度決算報告および昭和五二年度予算案

四、役員交代

(1) 理事秋山国三、監事日比野丈夫、評議員林健太郎・平山敏治郎氏の退任

(2) 常務理事(編集担当)に服部春彦氏、同(会計担当)に萩原淳平氏を選任

以上

なお、退任された前常務理事朝尾直弘氏は評議員に、同樋口隆康氏は理事に、それぞれ復帰されました。

史学研究会

編 集 後 記

うっとうしい梅雨空の続く今日この頃ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。「史林」も順調な定期刊行の軌道に乗り、週刊誌並に、発行日にはお手元へお届けできる程になりました。これも偏に会員の皆様のお蔭と、編集部一同感謝しております。今後とも相変らぬご協力をお願い申し上げます。

さて、六〇巻四号をお届け致します。本号はそれぞれの分野における力作揃い。丹念な文書整理に基づく手堅い論説あり、アプローチの方法そのものも問題とされるべき試論あり、更には五本を数える書評ありと、バラエティーに富んだ内容となりました。存分にご検討下さい。

別掲会告でもお知らせ致しました様に、「史林」総目録の刊行が理事会・評議員会にて決定されましたが、その業務に、岡内三真・朝尾直弘・大谷敏夫・田中峰雄・藤井讓治各氏が総目録担当委員として携わる

ことになりました。必ずや皆様のご期待に沿えるものが完成することと存じます。

また、それに伴い、編集部内にも多少の移動が生じました。長年編集を担当してこられた大谷敏夫・岡内三真・藤井讓治各氏が編集委員を退かれ、替って、足立啓二・和田晴吾・西山良平各氏が新たに編集部に加わり現在活躍中です。

尚、誠に惜しむべきことに、本会評議員の和歌森太郎氏が他界されました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(堀川)

史 林 (第六〇巻第四号)

一九七七年六月二五日印刷
一九七七年七月一日発行
定価七五〇円

発行人 史 学 研 究 会

理事長 佐 藤 長

印刷所 京都中下区七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LX No. 4

July 1977

CONTENTS

Articles:

- The Hungarian Uprising and the Communist
Party of Great Britain *J. Tomioka* (1)
- Ziguchisen* 地口銭 and The Landowning in *Rakuchû* 洛中... *A. Umata* (34)
- The Punitive Expedition, 1916-1917 *Y. Aoki* (81)

Note:

- An Essay on the Population of *Uygur* from the 18th
to the 20th Century..... *S. Hori* (111)

Book Reviews:

- Z. Hara*, Essays on Greek History *Y. Shinmura* (129)
- K. Mizuno*, The Politics and the Culture in the Age
of *Buke* 武家..... *A. Imatani* (136)
- S. Kodama*, The Development of the *Shinsyu* Sect
in the *Edo* 江戸 period..... *H. Yamanaka* (144)
- P. Ch'ang*, *T. Wang* et al., eds., Index to Biographical
Materials of Sung Figures..... *K. Morita* (150)
- A. Л. Каздан*, Социальный состав господствующего
класса Византии XI-XII вв. *K. Inoue* (157)

Miscellaneous:

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan